

県内大学における環境保全・環境教育等に関する取組

校名	学部等	学科等	研究室・講座・教員名等	研究テーマ・内容	ホームページリンク先
名古屋大学	全学	—	片山正昭, 岡田啓, 小林健太郎	環境調和型次世代自動車に関する研究	http://www.nagoya-u.ac.jp/international/env/csr-report/
		—	片山正昭, 岡田啓, 小林健太郎	エネルギーマネージメント研究・検討会 CO2排出削減アクションプラン実現のための具体的方策の提案	
	国際開発研究科	—	藤川清史	東アジア共生時代の環境経済政策—計量分析による政策評価—	
		—	藤川清史	名古屋議定書における期待便益の計測手法の開発	
	生命農学研究科	—	渡邊 彰	・土壌有機炭素の長期動態解析 ・炭化物を用いた農地土壌への炭素貯留に関する研究 ・森林—河川—海生態系における溶存有機物の動態と機能 ・熱帯泥炭湿地における持続的・低環境負荷型農業利用技術と炭素シンク機能	
		—	中川弥智子	東南アジア熱帯雨林における土地利用が生物多様性および樹木の繁殖成功に与える影響評価	
		—	小川 一治	森林の炭素利用効率の林分発達に伴う変化の解析, CO2吸収源としての森林の葉量の林分発達に伴う変化の解析	
		—	本道 栄一	環境変化と新興感染症出現の相関関係	
	農学国際教育協力研究センター	—	淡路 和則	食品の廃棄と資源化に関する研究	
		—	榎原大悟	地域資源を活用した土壌侵食防止のための保全農業手法	
	環境学研究科	—	浅沼修一	ケニア西部の土地荒廃地域における地域環境の保全と地域文化に関する学際的研究	
		—	竹内恒夫, 谷川寛樹, 杉山範子, 松野正太郎	環境省環境研究総合推進費(1-1304) 「『レジリエントシティ政策モデル』の開発とその実装化に関する研究」	
		—	竹内恒夫, 杉山範子	三井物産環境基金「欧州における国際ネットワークによる地域気候政策の成果と課題」	
		—	竹内恒夫, 松野正太郎	「名古屋リユース促進コベネフィットCO2削減事業」環境省地域における市場メカニズムを活用した取組モデル事業	
	エコトピア科学研究所	—	竹内恒夫, 松野正太郎	「地域内外の影響を考慮した環境・経済・社会の評価指標と測定手法の開発」環境省第Ⅱ期環境経済の政策研究	
		—	片山正昭	環境情報測定・環境制御のための通信技術	
		—	片山正昭	省資源型LED照明への通信機能付加による高機能化	
		—	片山正昭	環境制御・スマートグリッドを想定した無線制御方式	
		—	片山正昭	情報提示が省エネ行動に与える影響	
		—	岡田 啓	スマートコミュニティ実現を目指した無線ネットワーク	
		—	小林健太郎	ソーラーエネルギーハーベスティングを利用したセンサネットワークのための無線データ収集技術	
		—	松宮弘明	環境評価・資源リサイクルのための化学的分離・計測・物質変換技術	
		—	松宮弘明	イオン液体を用いるセルロース系バイオマスの再資源化	
—		松宮弘明	アドミセルを用いる水中塩素化エチレン類の捕集と分解処理		
博物館	—	松宮弘明	製鋼スラグ有効利用のための構成元素の存在形態別分析		
	—	武藤俊介	新規自動車排気ガス浄化触媒開発のための反応活性点のナノ分析		
名古屋工業大学	工学部共通	—	小林克敏	金属/セラミックナノ結晶材料の合成と環境浄化触媒への応用	http://www.nitech.ac.jp/intro/kankyo/index.html
		—	西田佐知子, 金岡雅浩	外来種による在来植物駆逐に関わる繁殖干渉のメカニズムの解明	
—	—	—	本学では、全学共通教育において「環境と社会」「生物と環境」など環境教育、ESDのためのカリキュラムを実施している他、各学科における専門教育においても各専門分野に関連した環境保全、環境教育に資するカリキュラムを実施している。また、複数の研究室においては、地域の自治体、企業等と連携して環境保全等に関する研究テーマを設定して卒業研究・大学院教育を行っている。	—	

愛知教育大学	教育学部	—	大鹿聖公研究室	・環境教育に活用できる教材の開発 ・小・中学校における環境教育カリキュラムの開発	なし
		—	榊原洋子研究室	・水環境管理に関する研究 ・有害廃棄物処理に関する研究 ・学校における環境安全衛生教育に関する研究 ・環境安全学	なし
		—	伊藤貴啓研究室	中学生向けのESD地域副読本の作成	なし
		—	太田弘一研究室	・壁面緑化の方法と効果に関する研究 ・環境保全型農業技術に関する研究	なし
国立大学法人 豊橋技術科学大学	工学部	全学科共通	生命環境工学技術者育成推進本部	『生命』を軸とした環境工学技術者(生命環境工学技術者)育成プログラムの実践	<a href="http://www.edupro.ens.tut.ac.jp">http://www.edupro.ens.tut.ac.jp</a>
		環境・生命工学系	—	持続社会コーディネーターコースの実践	<a href="http://see.ens.tut.ac.jp/gp/">http://see.ens.tut.ac.jp/gp/</a>
		環境・生命工学系	持続社会工学研究室	市民の環境行動を促すための環境情報に関する研究	<a href="http://see.ens.tut.ac.jp/">http://see.ens.tut.ac.jp/</a>
名古屋市立大学	—	—	岡村穰研究室	・建造物の緑化に関する研究 ・環境に配慮した道路建設に関する研究 ・生物分布と居住環境との関連に関する研究	なし
	システム自然科学研究科	生体情報専攻	理学情報特論I	身近な地域の現状から地球規模に至る環境問題について学ぶ授業を開講している。	なし
	全学教養教育	—	—	大学が掲げる教育目標の一つ「地球環境の保全と社会環境の整備発展」に対応し、環境問題の解決について主体的・系統的に学習するための資料として、関連する科目群の一覧を履修要項に掲載し学生に提供している。	なし
	人文社会学部	—	研究・教育開発委員会 (ESD担当：別所良美)	ESD基礎科目その他の科目のESD理念に向けた改革提案 各年度の人文社会学部ESDシンポジウムに企画・実行	なし
			地球	現在の地球環境は、46億年という長時間に渡る進化を経て形成されました。その間には、生命の誕生、酸素の発生、全地球凍結、生命の大量絶滅、大陸移動など、様々なダイナミックなイベントが繰り返されてきたと考えられています。しかしそれらは、もちろん私達が目にしたわけではありません。ではどのように記録されているのでしょうか。それは、当時形成された岩石に克明に記録されています。つまりこれらのイベントは、現在地球上に残されている岩石の詳細な研究から推測されたものです。そのためそれらは、未だ多くの謎に包まれています。本講義では、地球の46億年の歴史と、その間に起きた重要なイベントを地質学的側面から紹介し、地球と生命がいかなる進化過程を経て現在に至ったのかを理解することを目標とします。	
			資源・エネルギー	人類は、地球上にある様々な資源に蓄えられたエネルギーを利用して文明社会を築いてきた。産業革命以前は主に森林に蓄えられたエネルギーを利用し、産業革命以後は石炭・石油のエネルギーを利用し、近年は原子力をも利用するようになってきた。森林と石炭・石油は基本的な太陽のエネルギーを植物が蓄積してくれたもので、現在最も利用されているのが石油である。環境問題で二酸化炭素の排出について問題視されているが、その問題の本質は、石油の使用量の増大である。そして石油には埋蔵量に限界があり、近い将来ピークアウト即ち、石油の需要が供給可能量を上回ることが確実視されている。日本を含め先進諸国にとって、環境問題よりも実はこの石油のピークアウトの方が深刻な問題であり、今後真剣に対応を検討していかなければならない問題である。 本講義は、特にエネルギーに注目し、エネルギーとは何なのかを明らかにし、エネルギー問題の本質を明らかにしていく予定である。	

名古屋校舎  
共通教育科目

自然分野	環境の科学	<p>現代の文明社会が直面しているグローバルな地球環境問題は人間社会の政治・経済と密接に関わりがあり、人文社会科学を学ぶ上での基礎となりうる。この授業では、諸問題の自然科学的な側面に焦点を当て、問題の背景を解説する。その上で、私たち人間が生態系の一員であると言われていることの意味をあらためて考える。食物連鎖といった生き物どうしの基本的な関わりを把握するとともに、私たち人間が地球上の生き物に及ぼしている影響や、人間自身に及ぼす影響を考える。</p> <p>授業の最初の方で、世界的に知られている日本の公害問題の教訓を、生き物や生き物である人間との関わりで示す。わが国の五大公害訴訟で、食物連鎖による水銀の生物濃縮や、重金属が生き物に及ぼす影響、さらには産業上たいへん役に立つ物質が分解しにくいために動物の肝臓障害を起こすことが明らかにされている。これらの経験から有害物質は排出源で処理するという原則が重要であることを学ぶ。</p> <p>その後、地球と生命の歴史を大まかにたどり、もともとは有害な酸素が光合成を行うバクテリアや植物から排出されて、後に呼吸をする上で必要不可欠なものとなり、さらには酸素濃度の上昇が地球上の生き物を守る役割をも果たしているオゾン層を形成したという教訓を考える。</p> <p>また、光の波長が意味するところを理解したうえで、波長の短い紫外線が生き物にとって有害なのはどういうことかを考える。</p> <p>さらに、現代のエネルギー問題を理解する上で、温度、熱、エネルギーという基本的な事柄を理解することが求められている。そのことを理解した上で、地球上の大部分の生き物は太陽の光エネルギーを利用してきたという事実と、人間が化石燃料という過去の遺産を消費して生活しているという問題を考える。このような背景のもとに、現在の地球温暖化という問題が生じていることを把握する。このようなエネルギー問題に関連して、原子力発電の際に放出される放射性物質を私たち人間はまだ十分に制御する技術を有していないという問題や、太陽の光エネルギーを有効に活用する生き物に学ぶという視点から、これからの人間の文明のあり方を考える。</p> <p>さらにまた、生物多様性の宝庫である熱帯林が減少しつつあることや、ウイルスや生き物による感染症等もグローバルな問題として重大な課題となっていることに触れる。</p>
	環境と都市	<p>1991年、雲仙普賢岳の噴火に伴い火砕流が島原市を襲い43名が犠牲となった。火山噴火はしばしば都市に大きな災害をもたらす。そのような火山噴火はプレートの境界部で起きる。日本周辺には複数のプレート境界が存在するため、世界的にも火山活動が活発な国である。そのため、私達は火山について十分理解する必要がある。このことは愛知県のように火山を有しない都道府県（非火山地域）においても例外ではない。日本には28ヶ所の国立公園があり、どこも観光客でにぎわっているが、その内20ヶ所は火山地域にある。つまり非火山地域の住民も火山を観光目的で訪れる機会が多く、火山災害に遭遇する可能性は十分にあることを示している。そこで本講義では、火山噴火の仕組みを取り上げ、災害と都市の関係について理解することを目標とする。</p>

	社会分野	現代コミュニティ論	<p>この講義では、コミュニティとかコミュニティ活動という言葉で表現される地域社会での住民同士の対話・協力による共同生活条件・環境づくりをとりあげ、その内容、方法、目標、政策（運動と制度）などについて、具体的な事例を用いて講義をします。</p> <p>コミュニティが今日ほどよく使われ、目標とされる時代はないかもしれませんが、今日をいつからとするかは判断に迷うところですが、1989年に始まるバブル経済によって市街地や農山漁村では乱開発が進み、コミュニティが分断される事態が起きました。1995年の阪神淡路大震災は5000名以上の命を奪う大惨事でしたが、人々が日ごろの助け合い関係を生かし、助け合う共助の重要性を浮き彫りにしました。その後の復興では、こうした人々のきずなを重視しない都市計画に批判が集まり、あらたまたコミュニティの再生による人々の自立の可能性を浮き彫りにしました。そして、2003年4月以降の平成の大合併は、財政負担を軽減したい国による地域再編でしたが、市町村役場を失った地域ほど、住民自らが協議し、地域づくりを推進する住民自治運動や住民自治制度づくりに取り組み、新たな地域課題に取り組むためのコミュニティづくりを展望するようになりました。そして、2011年3月11日の東日本大震災被災地域では、被災住民の助け合いの場、復興の場、被災者支援をする遠隔地のボランティアの受け皿として、コミュニティの役割に注目が集まり、存在意義や再生に注目が集まりました。</p> <p>この講義では、現代社会においてコミュニティが注目される理由と、求められるコミュニティの姿、条件、目標などを明らかにし、グローバル化や政府の経済政策・行政改革の中にあっても、それに左右されない住民自治に基づくコミュニティ政策について展望したいと思います。</p>
法学部	法学科	地域政策概論	<p>この講義では、地域社会に深くかかわる各種政策について、その概要、実施主体、政策展開上の問題等について学習する。私たちが暮らしている日常生活、社会のなかで、各種政策はどのように形成・実施され、どのような働きをしているのかということ、具体例を織り交ぜながら説明する。</p> <p>なお、本講義は地方自治論Ⅰ、Ⅱおよび公共政策論Ⅰ、Ⅱの入門的位置づけとなる。</p>
経済学部	経済学科	環境経済学	<p>「経済学を中心としたアプローチによる環境問題の総合的理解」</p> <p>環境問題の理解のためには自然科学の知識が先ず必要である。環境経済学は自然科学のアプローチとの融合をはかることが重要な学問である。環境経済学の他、自然科学、社会学、法学など様々な道具も用いて、ホットな環境問題の経済社会との側面を解きほぐす授業を目指す。</p> <p>最終的には、環境とは価格が付きにくい価値物ととらえ、その価値を損なわないための方策を見定め、そのために必要な社会、さらには学生自身がどのような行動をとるべきか考える。</p>
		環境・エネルギー政策論	<p>「環境・エネルギー問題解決への政策の有効性」</p> <p>環境・エネルギー問題の解決のためには様々なアプローチがある。大切なことは効率と公正さの確保とその持続性である。社会のそれぞれの立場の責任と自由を考えながら、とくに、「公」と「私」の役割分担の中で、政策の有効性と望ましいポリシーミックスなど環境・エネルギー問題解決へのアプローチを政策中心に講義する。</p>
		地球資源論	<p>「地球資源の賦存と予測」</p> <p>現代の豊かな文明は、膨大な地球資源の消費の上に成り立っている。それらの資源が、地球上でどのようなかたちで、どのような分布をしているのか、またどのくらいの賦存量があるのかは、人類の未来にとって最も重要な事項の一つである。この講義では、石油をはじめとするエネルギー資源、鉱物資源また水資源などについて、その分布、成因、賦存量および将来予測などについて説明し、その開発の歴史、国際・経済情勢や環境問題との関わりについても触れる。</p> <p>現代の世界における経済、国際関係などを理解するためには、資源問題からの視点が欠かせない。それに対して、この科目は役に立つであろう。</p>

		現代企業への経営環境	<p>「現代企業を取り巻く経営環境と企業経営における課題について」</p> <p>バブル崩壊後、日本経済は「失われた20年」とも呼ばれる長い不況に突入し、1970年代から80年代にかけてジャパン・アズ・ナンバーワンと評価された我が国企業は未だ抜け出せない状況にある。グローバル化、IT化、進展する技術革新、少子高齢・人口減少化社会の到来など激変する経営環境に対し、環境変化への適応とともに「いかに企業が自己革新を図っていくか」が現代企業における重要な課題となっている。</p> <p>本講義では、はじめに現代企業の経営環境をとらえる場合にどのような観点が求められるかを示し、その上で環境変化への適応と求められるイノベーションの方向性について業界を代表する大企業の諸事例を通して解説する。また、企業市民として求められる環境問題への取り組みやCSRへの対応等についても説明する。</p>	
		環境会計論Ⅰ	<p>「環境問題と会計との関係性を理解し、環境会計ガイドラインを理解する。」</p> <p>環境会計の理論と現状についてみていく。環境会計にも外部ディスクロージャーの側面と、原価計算・管理会計の側面の両方があるが、環境会計論Ⅰでは主として外部ディスクロージャーの側面について触れることとし、環境原価計算や環境管理会計については秋学期の環境会計論Ⅱにおいて検討することとする。</p> <p>また、近年、環境問題の知識に関する検定試験も始まっているので、その対策も行う。具体的には「環境社会検定」（通称ECO検定）である。この試験は環境の持続可能性について、社会・企業とのかかわりについても重視しているので、環境マネジメントや環境会計も出題範囲に含まれる。本講義の学習成果を上げるために適当と思われるので、毎回の講義の3分の1程度の時間はECO検定の内容に触れることとしたい。</p>	
		環境会計論Ⅱ	<p>「環境管理会計の技法を知り、環境経営における環境会計の意義を理解する。」</p> <p>環境会計の理論と現状についてみていく。環境会計にも外部ディスクロージャーの側面と、原価計算・管理会計の側面の両方があるが、環境会計論Ⅱでは主として環境原価計算や環境管理会計の側面について触れることとし、外部ディスクロージャーの側面については春学期の環境会計論Ⅰにおいて検討することとする。</p> <p>なお、前期の環境会計論Ⅰで取り上げる「ECO検定」について、公式テキストの内容が全部終了できなかった場合は、その続きを本講義で行う。その内容については期末試験・レポートには含めないが、環境問題は何かしら環境会計とは関連するので、ECO検定の学習成果も本講義の学習成果向上には十分寄与するものである。</p>	
愛知大学	現代中国学部	現代中国学科	現代中国学特殊講義1	<p>愛知大学は、1995年に創立50周年事業として、中国内モンゴル自治区恩格貝クブチ沙漠における植林作業に「緑の協力隊」を派遣し、それ以降、同地域における沙漠化防止・緑化事業に積極的に参加してきた。特に、愛知大学の在校生、OB・OG、教職員、等が、植林NGOや日本の民間企業、そして現地での緑化事業を共同し継続して進めている植林事業の実績は、各方面から高く評価されている。</p> <p>本授業では、先ず、世界や中国の沙漠化の現状及び植林事業の状況を座学・集中講義によって学習する。続いて現地での植林作業に参加し、地元植林関係者や日本のNGO植林専門家との協力を基礎に、沙漠化防止の実際の成果を目指す。</p> <p>さらに帰国後は現地での植林と交流の経験を踏まえ、各自が報告レポートを作成、発表し、討論を行う。</p> <p>以上のように本授業の参加者は、今日世界で最も深刻化している中国の沙漠化に対する防止事業に国際ボランティアの一員として参加することができる。そしてこれを契機に、今後の地球環境保全や国際協力の意義と課題に関して考察することができる。</p>

<http://www.aichi-u.ac.jp>

豊橋校舎 共通教育科目	自然分野	地球環境問題	<p>「地球システムとして見た環境問題」</p> <p>現在、地球環境問題が人類にとって最大の課題であることは言うを俟たない。また、この極めて困難な問題の解決なくして、バラ色の21世紀の展望は開けない。この講義では、悠久の地球史の中で培われた地球環境が、人類の出現とその活動によっていかに変質され、破壊されてきたかを概観し、現在直面している主要な個々の環境問題について、その実態と原因について解説する。これらを、地球システムの観点から見ると、どのようなことがいかに関連して生じているのか、総合的にとらえる視点が得られるようにする。最後に、人類と自然との共存はいかにして可能か、新しい社会システムのあり方と環境保全への道を模索する。</p> <p>現代を生きるすべての人々にとって地球環境問題についての基礎的な知識は欠かせない。それにこの科目は役立つであろう。</p>
		自然環境と地理	<p>古来から自然環境と人間活動の間には密接な関係がある。本講義では、「森林と水環境」をテーマに自然環境や環境問題について、日常生活での様々な事例を取り上げながらわかりやすく解説したい。</p>
		地球の科学	<p>「日本列島の地球科学」</p> <p>われわれの国土である日本列島は、環太平洋の変動帯に属し、典型的な弧状列島である。この列島は、活発な地震活動や火山活動があり、著しく地殻変動の活発なところである。また毎年のようにさまざまな災害に見舞われている。日本列島の構造、成り立ちや現在起こっている運動について学び、われわれを取り巻く自然環境がどのような歴史を経て形成されたのかを知ろう。</p> <p>地球環境問題や災害についての基礎的な知識が得られるであろう。</p>
		地理学	<p>この講義は、日本を中心として各地域の人文分野、自然分野の地理的現象を解説し、地域を取り巻く状況の理解を目指します。</p> <p>具体的には、自然環境、人口問題、都市・まちづくり、経済産業活動、交通インフラなどを切り口に、データや具体事例に基づいて地理学的視点から地域の諸現象を概説します。この講義を通じて地理的なものの考え方や発想を養う入り口としたいと考えます。</p>
名古屋校舎 豊橋校舎 共通教育科目	自然分野	生態学	<p>生き物の多様性を、生き物相互の関わり、および生き物と環境の関わりからの観点から捉える。まず、生き物の系統という視点を中心に捉えて、生物五界説を紹介する。次に生き物の進化の歴史性を理解するために、細胞共生説とカンブリア紀の大爆発を解説する。その後は、おもに動物と植物をとりあげ、動物と植物の繁殖戦略という観点を中心に据えて話を進める。から動物と植物の例を示す。相互の関わりと生き物と環境の関わりから捉える。動物では、サバクトビバッタにおける個体数の変動、魚の性転換、魚の子育て、ミツバチのコミュニケーション等の例を示し、動物のさまざまな行動パターンや社会性の意味を考える。高校までに得たような単なる知識としてではなく、生き物相互の関係や、生き物と環境との関連を考える素材として示す。また、ミツバチのコミュニケーションでは、研究の方法にも触れるとともに、生き物の世界の情報の利用と伝達という意味を考える。後半は、植物を中心に、ブナ科の生態や植生の遷移の例を示す。また、森林と人間との関わりに視野を広げる。最後に、人類の起源と森林の関わりに触れる。</p>
		環境社会学	<p>「環境問題の多様化と社会学の展開」</p> <p>従来、社会学をはじめとする社会科学においては、人間生活の環境は、利便性や安全性、快適性を確保するための対象や条件として指定され、環境そのものが研究や問題の対象としては捕らえられることがほとんど無かった。</p> <p>しかし、人間と自然との関係が産業社会の進展とともに複雑でより高度な構造的関係に変質をする過程で、現代社会においては公害問題をはじめさまざまな社会問題が現出し、いわゆる環境問題はたんなる自然界そのものの問題だけではなく、文明のあり方や社会生活の構造にかかわる社会的問題として認識することが必要になってきた。</p> <p>社会学においても環境を単なる与件としてでなく社会現象研究の要素として構成した環境社会学的研究が重要な課題になっている。</p> <p>本講では、日常生活に関わる問題から地球規模の問題に関わる多様な環境問題について、環境社会学の展開過程を整理し、現代社会における課題の歴史的な検討とともに、具体的な問題事例を分析、検討することによって、環境社会学の理論的方法論の解明とその実践的可能性について探求する。</p>

文学部	人文社会学科	地理学特殊講義Ⅰ	「自然地理学の基礎」 この授業の目的は、昨年度の後期に開設した地球環境科学Ⅱで行った日本の自然環境の生い立ちや地域特性を、さらに詳しく解説することにある。まず、現在の自然環境を特徴づけた最新の地質時代である第四紀における自然環境の変遷について概説する。次に、教科書『風景の中の自然地理』の内容に沿って、日本の地形、植生、そして気候について、さらに詳しく解説する。
		地理学特殊講義Ⅲ	「日本の気候環境」 大気循環によってもたらされる日本の様々な気候地域について、自然地理学の立場から解説することをこの授業の目的とする。地球環境科学Ⅰで解説した大気大循環について復習したあと、日本の気候を、季節ごとに説明する。
		地球環境科学Ⅰ	「世界の自然環境」 大気大循環によってもたらされる様々な気候地域について、自然地理学の立場から解説することをこの授業の第一の目的とする。全陸地面積の3分の1を占めると言われ、砂漠化などの環境の劣化が問題になっている乾燥地域、半乾燥に焦点を当て、最近の環境問題について解説を試みる。
		地球環境科学Ⅱ	「日本の自然環境の生い立ち」 この授業の目的は、日本の自然環境の生い立ちや地域特性を、自然地理学の立場から解説することにある。まず、現在の自然環境を特徴づけた最新の地質時代である第四紀における自然環境の変遷について概説する。次に、日本の地形、植生、そして気候について、火山、山地、森、台地と丘陵、平野、湖、海岸、気候とその変動というテーマに分けて解説する。
		人間活動の地理学	人間は環境に適応して暮らしつつ、環境の改変もおこなってきた。人間活動と環境との関わりを記述する地理学の論文15編の内容を紹介して、人間活動と環境との関わりを考えさせる。
地域政策学部	地域政策学科	GIS概論	GIS（地理情報システム）は、地理学や情報技術、地球科学、社会科学、生態学、計測工学など、様々な分野に関わる学際的なシステムであるだけでなく、近年は「地理情報科学（GIScience）」として学問分野のひとつとして認知されつつある。本授業では、GISに関する基礎的な知識を身につけます。まず地理情報とは何か、GISの概念や歴史、GISをとりまく現状、GISの構成要素や機能について学ぶ。次に、自治体や民間企業、研究教育機関など諸分野におけるGISの活用事例を把握する。
		GIS演習Ⅰ	【空間情報の視覚表現と伝達】 地域情報の空間的・分野横断的な表現・分析手法の習得が、演習のテーマである。演習では、GISの基本概念、GISソフトウェアの基本操作をはじめ、空間データの投影法と空間データのマップ表示、空間情報の加工、検索、表示と表現を含めた主題図の作成方法を学ぶ。地域社会の情報を空間的・視覚的に表現するGISコンテンツの作成技法を身に付け、総合的・俯瞰的に地域社会を表現することを本講義の目標とする。最終課題は主題図作成とその考察とする。
		地域政策とGIS活用	【社会基盤・地方行財政のGIS表現とその考察】 近年、地域は少子高齢化、過疎と過密、産業構造や環境等が大きく変化している。それに対し、行政では、生活を支える社会基盤や住民サービスを継続・向上するためにさまざまな施策を推進しています。それらを考える上で、社会基盤整備状況はもちろん、地方自治体等の財政状況を把握することは重要なことです。このような構造をGIS活用して空間的に確認し、住民のための地域を考察することを目標とします。
		環境政策論	身近なごみ処理から地球環境保全に至るまで、幅広く環境問題を学び、それらを解きほぐす政策の課題・方向性を考える。メディアとの関係にも触れ、できるだけニュースに即し、政策的課題を探る。
		森林の管理と経営	「これからの森林管理」をテーマに、日本の森林の課題を明らかにしつつ、多面的機能を重視した環境保全型の新たな森林管理について考える。具体的な事例を提示しながらわかりやすく解説したい。
		農業経済論	日本の農業は現在、食料自給率の低下や農業従事者の高齢化など大きな課題に直面していると言われています。食料自給率40%、食品偽装問題、食料争奪、バイオ燃料、フードビジネス、株式会社の農業参入、食育、限界集落、定年帰農等々、さまざまな問題や現象が指摘されています。いま食と農の現場で起こっている問題に私たちはどうかかわっているのか。暮らしのなかの食と農に光を当てながら、食糧生産の供給と消費の実態と問題を理解するとともに、農業への若者の参入の可能性について考えます。



			水産資源論	「水産業の地域的特性と資源管理の展開」 世界と日本の水産業の展開を、地域的特性や資源管理などの観点から整理したのち、豊かな水産資源を有する東海地方の水産業の展開を概説する。また、下記に示すプログラムの内容を講述しながら、関連する新聞や雑誌記事などを随時配布、パワーポイント画面上に提示し、最新の水産資源や水産業の状況を知ってもらう。このことを通じて、水産業・水産資源の現況やそれらの抱える問題点、今後のあり方、そして水産業と環境などについて考えたい。 本講は、狭義の「水産資源学」の枠にとらわれず、自然、社会、経済、歴史、文化などの観点から、多面的に水産業ないし水産資源にアプローチする。したがって、「なじみのない水産業」の世界だが、知的好奇心をもち、講義やレポート作成を通じて自らの興味・関心の幅を広げ、なおかつ積極的に意見を発信できる学生に受講をすすめたい。	
			流域管理論	流域の概念やその管理手法を理解するために、流域の構成要素である山地、河川、海岸の形成と役割、それらの繋がりについて概説する。また、流域管理の実施例を紹介する。	
			エコ地域づくり論	持続可能な社会形成は人類の最も重要な課題であるが、それに対する行動は地域から起こるべきである。本講義では持続可能な地域づくり（エコ地域づくり）を学習する。	
			都市と水	「健全な水循環の再生」をテーマに、都市で発生する様々な水環境問題とその解決策について考える。具体的事例を提示しながらわかりやすく解説したい。	
			地域資源論	2005年6月に施行された「中小企業地域資源活用促進法」では、その事業活動を支援するものとして「地域産業資源」が挙げられています。このように、近年の日本において地域活性化を考えるにあたっては、地域が有する資源、すなわち「地域資源」の利用が不可欠です。こうした状況を踏まえ、地域資源とはいかなるものか、地域活性化にむけて地域資源がどのように利用されているのかを、「地理学」をベースとし、実際の事例を通じて理解します。	
地域連携室	—	人工林間伐地へ広葉樹植樹事業	愛知大学が事務局を務めている新城設楽生態系ネットワーク協議会が主催し、生物多様性豊かな森を創出することを目的に、大学生、地域住民等の参加を得た広葉樹の植林事業を2014年11月に実施。		
	—	新城設楽生態系ネットワーク協議会フォーラム	新城設楽地域において野生動植物等自然とともに生きるため、諸課題を解決する生態系ネットワーク形成のあり方、可能性を探るため、地域住民、NPO、林業従事者等対象としたフォーラムを2014年11月に開催。		
	—	ビオトープ創出事業	学生が中心となりNPO、同窓会等と連携し、豊橋校舎内に野鳥を中心とした生きものの餌や住家となりうる低木の花木類や木の実のなる植物、山野草等の植栽を行うビオトープ事業を2015年1月に実施。		
愛知医科大学	医学部	医学科	衛生学講座	公益社団法人愛知県ペストコントロール協会と協力し、殺虫剤散布作業者の健康と環境への負荷の少ない衛生害虫防除のあり方について学ぶ実習を実施するとともに、実際に作業者の殺虫剤曝露に関する研究を県内の他大学と共同で行っている。	なし
			衛生学講座	2学年次を対象に「医学・医療と社会」という科目の中で、環境保健とそのしくみについて講義を行っている。	なし
			衛生学講座	3学年次を対象に「医学・医療と社会」という科目の中で環境保健の総論、水と健康、公害、放射線について講義を行っている。	なし
愛知医療学院短期大学	—	リハビリテーション学科	生物と環境	授業の中で、地球環境問題及び地球環境を守るためにはどう行動すればよいかを考え、持続可能な社会の実現のため、主体的に行動できることを目指す。	—
愛知学院大学	総合政策学部	総合政策学科	森下 英治ゼミ	環境政策・計画・改善とそのための支援システム	なし
	総合政策学部	総合政策学科	村田 尚生ゼミ	まちづくり・ひとづくり	<a href="http://www.psis.agu.ac.jp/">http://www.psis.agu.ac.jp/</a>
	—	—	学内ボランティア活動	森と緑づくり環境活動・学習推進事業(里山ボランティア)	なし
—	—	学内ボランティア活動	愛知学院大学日進キャンパスビオトープ整備事業	なし	
愛知工科大学	—	—	大竹才人研究室	次世代太陽電池の開発	なし
愛知工科大学自動車短期大	—	—	加藤寛研究室	バイオ・ディーゼル燃料の実用化の研究	なし
愛知工業大学	工学部	都市環境学科	内田臣一教授研究室	・矢作川において過度の河床安定が生物に与えている影響 ・カワゲラ目昆虫の系統分類	<a href="http://www.ait.ac.jp/gakubu-in/kou_g.h">http://www.ait.ac.jp/gakubu-in/kou_g.h</a>
			八木明彦教授研究室	・水域での物質循環と浄化機構 ・温室効果ガスの発生とその機構	なし



		建築学科	武田美恵講師	・里山の景観が残る都市近郊集落の共同体意識と環境要素 ・自然エネルギーと暮らしへの活用 ・自然環境を活用したアートプロジェクトがもたらす心理的影響	なし
愛知産業大学	造形学部	建築学科	宇野研究室 木造住宅設計製図	箱型模型を用いた建築環境教育用教材についての研究 地域の素材と伝統技術を活かした伝統的町家の修復の実践を地域と連携して実施している。	なし <a href="http://www.asu.ac.jp">http://www.asu.ac.jp</a>
愛知淑徳大学	文学部	教育学科	環境教育	新しい学習指導要領の重要な領域のひとつである「総合的な学習の時間」のなかに位置付けられている「環境問題」を自然史、産業発展史と関連付けて、地球の温暖化、生物多様性保全などの地球的規模の環境問題、廃棄物問題、水質汚染、大気汚染などの身近な公害問題について、環境分野・産業分野の行政経験や最新の知見をもとに紹介するとともに、環境と経済が両立する持続可能な社会づくりを進めるうえでの課題について、事例をもとに考える。	なし
	文学部	教育学科	環境の保護	いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれを取りまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。	なし
	—	—	コミュニティ・コラボレーションセンター	環境保全を含めた社会貢献活動・ボランティアに関する情報を学生に紹介し、参画を斡旋している。 また、学生たちによる自主的な環境活動に関する団体が4つあり、その活動を支援している。各団体の活動テーマは、ごみ減量、里山・竹林保全、米作り、フェアトレード。	<a href="http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/index.html">http://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/index.html</a>
愛知東邦大学	全学部共通	—	環境科学	人類にとって重要な課題になっている地球環境問題を理解するために、地球環境のしくみを基礎から考えていく。地球環境をシステムとして捉え、大気圏・水圏など各サブシステムの構成・起源・進化、その中での熱や物質の流れといったものを理解し、それらを基に現在問題となっている各種の地球環境問題を考えていく。	<a href="http://www.aichi-toho.ac.jp/annai/shiryo/public.html">http://www.aichi-toho.ac.jp/annai/shiryo/public.html</a>
愛知文教女子短期大学	—	幼児教育学科	保育内容指導法Ⅰ・環境	生活や遊びの中、子ども達がどのような環境にかかわり活動を生み出していくのか、また季節や状況に応じて保育者がどのような環境を設定すればよいかを具体的な事例を取り上げながら学び習得する。	<a href="http://www.ai-bunkyo.ac.jp">http://www.ai-bunkyo.ac.jp</a>
金城学院大学	国際情報学部	国際情報学科	生物学研究室	里山環境の保全、東海地方固有の湿地環境の保全	ブログ： <a href="http://kinjosatoyama.blogspot.jp/">http://kinjosatoyama.blogspot.jp/</a>
	全学共通	—	里山学	全学生を対象に、里山の実態を生態学・文化・社会など多様な方面から実習を含めて学ぶ、選択科目の授業を2015年度から開講する。	—
	金城里山コンサベーション	—	市民向けの里山学習講座	里山を紹介しつつ、炭焼きや里山の材料を利用した活動に関する講座を年間3回程度開催している。	ホームページ： <a href="http://www.kinjo-u.ac.jp/satoyama/">http://www.kinjo-u.ac.jp/satoyama/</a> ブログ： <a href="http://kiniosatoyama.blogspot.jp/">http://kiniosatoyama.blogspot.jp/</a>
椋山女学園大学	教育学部	子ども発達学科	科学教育および自然環境学研究	1. 学校ビオトープを用いた教員養成課程の環境教育 2. 園庭および校庭の生物相の把握とその教材化	
中京大学	—	—	斉藤尚文研究室	研究ではないが、高大連携教育プログラムの授業で「環境教育を体験しよう」をテーマに行った。ゼミ生6名と高校生20名が影響や対策について考えた。	<a href="http://www.chukyo-u.ac.jp/news/2013/03/006082.html">http://www.chukyo-u.ac.jp/news/2013/03/006082.html</a>
豊橋創造大学	全学部共通	—	地球の生態学Ⅰ 地球の生態学Ⅱ	地球環境に関わる諸問題に共通する自然科学的原理を通して、自然環境の本質的な意味を理解し、人類を含む生物の生存について考える。	<a href="http://www.sozo.ac.jp/index.php">http://www.sozo.ac.jp/index.php</a>
	経営学部	経営学科	プロジェクト実習1 プロジェクト実習2	豊橋市における外来生物の影響調査（和田プロジェクト）	<a href="http://project.sozo.ac.jp/portal/">http://project.sozo.ac.jp/portal/</a>

豆柄劇団八子	経営学部	経営学科	プロジェクト実習1 プロジェクト実習2	豊橋エコタウン・プロジェクト2014 豊橋市内小中学校の太陽光発電システムの状況調査	<a href="http://project.sozo.ac.jp/portal/">http://project.sozo.ac.jp/portal/</a>
	経営学部	経営学科	プロジェクト実習1 プロジェクト実習2	アカウミガメの保護救出作戦	<a href="http://project.sozo.ac.jp/portal/">http://project.sozo.ac.jp/portal/</a>
名古屋学芸大学	ヒューマンケア学	子どもケア学科	自然のしくみ	自然事象に関心を持つと共に、自然の持つ偉大さ、巧みさ、しくみに共感し、自然を愛し、自然と共生できる人間を追求する	なし
	全学部共通	—	人間と地球環境	地球の現状を理解し、私たちの生活との関係について考える。特に「自然災害」と「地球環境問題」について現状を認識する。	なし
名古屋学芸大学短期大学部	全学部共通	—	現代社会理解D（エコロジーを考える）	エコロジーを「環境への負荷」を減らすこと、「自然保護に関わる活動」をとらえ、エコロジーすなわち環境問題をそれぞれテーマごとに考え理解する。	なし
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部	環境情報ビジネス学科	—	学生と教職員の協働による、ISO14001認証の取得、維持活動。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>
			—	三重県教育委員会と協力し、「里山環境学習セミナー」を開催。91名が参加。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>
			—	台湾の環境教育国際セミナーで、本学の学長、教員、大学院生が講演。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>
			—	ゼミナール活動の一環で、学内外地域清掃を実施。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>
			—	台湾の小・中学校、高校と連携し、地域のCO2濃度調査に基づく環境教育の実践。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>
	—	高大連携事業	三重県立久居農林高校、四日市農芸高校、愛知県立緑丘商業高校、名古屋市立若宮商業高校、岐阜県立岐阜農林高校において、地域のCO2濃度調査に基づく高大連携事業の実施。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>	
	—	—	環境経営研究所	尾張旭市役所と共催で、年一回「環境フォーラムを」開催。今年度は12月13日に開催。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>
—	—	環境情報ビジネス学会	11月11日に、ESD環境セミナー「CO2観測による環境学習」を名古屋市・国際会議場で実施。	<a href="http://www.nagoya-su.ac.jp/">http://www.nagoya-su.ac.jp/</a>	
名古屋経営短期大学	—	全学科	—	学生と教職員の協働による、ISO14001認証の取得、維持活動。	<a href="http://www.jc.nagoya-su.ac.jp/">http://www.jc.nagoya-su.ac.jp/</a>
	—	全学科	—	ゼミナール活動の一環で、学内外地域清掃を実施。	<a href="http://www.jc.nagoya-su.ac.jp/">http://www.jc.nagoya-su.ac.jp/</a>
名古屋経済大学	全学部共通	—	環境共生の探究I	地球温暖化問題に焦点を当てて、環境共生について考えます。具体的には、温暖化にともない企業の現状はどうなっているのか、課題、在り方などを学ぶことを目的とします。	<a href="http://web.nagoya-ku.ac.jp/">http://web.nagoya-ku.ac.jp/</a>
		—	環境共生の探究II	環境と共生しうる社会をめざすという観点から、(1)人類と環境問題の関わり、(2)環境問題の歴史的展開過程、(3)具体的分野（地球温暖化、大気汚染、放射能汚染）における環境問題の現状と対策、(4)自分たちの生活と環境問題について学びます。	<a href="http://web.nagoya-ku.ac.jp/">http://web.nagoya-ku.ac.jp/</a>
		—	体験型プロジェクト (学内外の環境保全)	学内や学外の環境保全に関する活動計画の策定や、実際に環境保全活動を行うことを通じて、環境保全活動の意義や社会科学における学び（経済や経営や法の学び）とのかかわりについて理解を深めることを目標とします。	<a href="http://web.nagoya-ku.ac.jp/">http://web.nagoya-ku.ac.jp/</a>
名古屋商科大学	全学部共通	地球環境論	—	地球環境問題について、法的な視点から理解することである。つまり、地球温暖化問題、生物の多様性の保護などといった問題に対して、国際条約がどのように対処しているかを理解する。国際条約を学ぶからといって、単に条文を読むのではなく、そのような条約を締結するに至った経緯や、条約の問題点を分析することにより、今後の国際環境問題への対応力を備えることを目的とする	学生、教職員のみ閲覧可能
		環境学入門	—	地球温暖化（気候変動）や有害化学物質汚染、生物多様性の喪失など、環境問題は今日、地球規模で深刻化しています。このような中、これらの問題の改善に向けた対策や国際的協調の重要性がますます高まっているほか、企業活動の社会的責任（CSR）という観点でも、環境問題は重視されるテーマとなっています。環境問題の特性について解説すると共に、個々の環境問題や、その対策について学びます。さらに、環境問題の改善に向けて、私たちがどのような形で貢献していけるのかについても考えます。	学生、教職員のみ閲覧可能
		資源とエネルギー	—	人間活動に不可欠な地球資源とエネルギー問題を扱うものである。現在、問題となっているエネルギー資源の枯渇が人間社会に及ぼす影響と地上資源の活用方法などについても考察する。また、エネルギー問題を考え直していくうえで、世界的な視野を持ってビジネス界に貢献できる能力を持ったリーダーや起業家を育成できるよう、グローバル化における資源とエネルギー課題を満ち、卒業後もこれを仕事の中に取り込んでいく姿勢を培っていく。	学生、教職員のみ閲覧可能

名古屋文化短期大学	—	生活文化学科	生活環境論	自然界や人間社会の中で生じている、さまざまな現象、状況を空間軸と時間軸の両面から考え、生活環境について概念構築能力を身につける。	なし
			里山プロジェクト推進委員会	全学学生を対象とした本学の環境教育の取組み拠点として、合掌造り施設を利用し、環境、生活、文化などの感受性についての「環境教育」を行なっている。	なし
南山大学	社会科学部	総合政策学専攻	石川良文研究室	都市環境政策の経済評価	なし
	総合政策学部	総合政策学科			
	社会科学部	総合政策学専攻	藤本潔研究室	・地形・生態系プロセスを考慮した地域・地球環境保全に関する研究 ・沿岸域における地形・生態系プロセスを考慮した地域・地球環境保全に関する研究	なし
	総合政策学部	総合政策学科			
	社会科学部	総合政策学専攻	前田洋枝研究室	市民参加促進アプローチの開発とその効果の検討 市民・事業者・NPO・行政の協働による3R行動促進に関する研究	なし
	総合政策学部	総合政策学科			
	社会科学部	総合政策学専攻	鶴見哲也研究室	経済発展だけを追い求めることは果たして人々の幸せに繋がっているのか	なし
総合政策学部	総合政策学科				
南山大学短期大学部	短期大学部	英語科	関口知子研究室	人と文化の多様性を活かすESDの実践研究	<a href="http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/te/faculty/sekiguchi.html">http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/te/faculty/sekiguchi.html</a>
日本福祉大学	知多半島総合研究所	—	関係者、市民向けのフォーラム	知多半島生態系ネットワークフォーラムを開催している。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/chitaken/">http://www.n-fukushi.ac.jp/chitaken/</a>
	経済学部		環境と人間	人間のおかれている環境についての理解を深める。環境問題を構造的に見ていくことからはじめ、環境とエネルギーの関わりについて学ぶ。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/keizai_kamoku/ichiran_130.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/keizai_kamoku/ichiran_130.html</a>
	経済学部		環境経済学	グローバルな目標とローカルな行動を整合させることができるのかという観点から、環境問題に対する、経済、制度、倫理、市民活動といった社会科学的側面からのアプローチを学ぶ。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/keizai_kamoku/ichiran_130.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/keizai_kamoku/ichiran_130.html</a>
	健康科学部	福祉工学科	環境保全と経済	自然環境の保護と経済システムとの関わりについて幅広く学習する。これをもとに、都市と経済生産システムとの関わりにおける環境問題、廃棄物（建築生産及び廃材など）に対する環境経済的接近等について広く学習する。また、環境問題に対する企業のあり方や、様々な企業の生産活動における環境保全への実際の取り組みについても紹介する。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html</a>
	国際福祉開発学部	国際福祉開発学科	環境と開発Ⅰ	地球と地域という空間と、食料やエネルギーなどの資源の世界的なつながりを基本としつつ、自然的・社会的・人的側面から持続可能な開発のあり方を考える。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kokusai_kamoku/ichiran_170.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kokusai_kamoku/ichiran_170.html</a>
	国際福祉開発学部	国際福祉開発学科	環境と開発Ⅱ	1年次配当科目である「環境と開発Ⅰ」で学んだ内容を受け継ぎつつ、特に、ヨーロッパやアジアにおいて取り組まれている環境共生型の地域づくりの先進事例を学ぶとともに、日本における伝統的な自然共生型の暮らしを振り返る。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kokusai_kamoku/ichiran_170.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kokusai_kamoku/ichiran_170.html</a>
	健康科学部	福祉工学科	環境政策論	わが国の環境政策についてまず紹介し、その背景にあるものや、生活居住環境との関わりについて広く学んでいく。具体的には、地球温暖化をはじめとした環境問題を取り上げ、これらに対する経済政策アプローチについて紹介する。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html</a>
	経済学部	経済学科	環境ビジネス	新しい段階に入った環境ビジネスの全体像を理解するとともに、今後、環境ビジネスをめぐる社会がどのように変革されていくか、各界の専門家を招いて、考えていきたい。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/keizai_kamoku/ichiran_130.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/keizai_kamoku/ichiran_130.html</a>
	健康科学部	福祉工学科	環境共生入門	環境共生分野の教員のオムニバス演習により、環境共生の専門分野を学ぶ上での基礎的な手法を演習形式で身につける。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html</a>
	子ども発達学部	子ども発達学科	地理学	各地域の自然環境や、産業、住民の生活などの暮らしについて、「地域開発」政策と関連させながら、地域問題を重視して取り上げるとともに、地域づくりや地域のあり方を考察する。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kodomo_kamoku/ichiran_160.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kodomo_kamoku/ichiran_160.html</a>
	子ども発達学部	子ども発達学科	自然地理学	地形や気候、水域などの環境の特色などを明らかにする。また、自然環境と人々の生活との関わりを考察するとともに、近年重大な問題になってきた地球規模の環境問題や地域の環境問題、それに震災や水害などの災害について具体的に授業で取り上げ、その解決方法や防災などについて考えていく。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kodomo_kamoku/ichiran_160.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kodomo_kamoku/ichiran_160.html</a>
	健康科学部	福祉工学科	森林の保護	現在日本および世界で発生している森林に対するさまざまな危害を紹介するとともに、森林生態系における生物の機能と役割を解説する。さらに、日本の森林をめぐる現状についても解説する。	<a href="http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html">http://www.n-fukushi.ac.jp/syllabus/syllabus2014/kenko_kamoku/ichiran_150.html</a>

人間環境大学	環境教育センター			大学学部教育における「環境教育」共通カリキュラム開発のための戦略的連携事業	なし
藤田保健衛生大学	全学部共通	—	アSEMBリ バードウォッチング班	大学や豊明市、名古屋市東南部でバードウォッチングを通して環境保全への意識を高めている。	なし
	医学部	医学科	予防医学	環境保健における飲料水・空気試験法についての技術を学ぶ。	なし
	医療科学部	臨床検査学科	公衆衛生学 I	今日の健康に関わる諸問題及びその対策について理解を深めるために、国民の健康状態を把握するための衛生統計等の各種統計、多様な環境に起因する健康問題の現状と予防対策について学ぶ。	なし
	医療科学部	看護学科	環境科学論	大気汚染、水質汚濁など身近な生活環境問題や地球温暖化を始めとする地球規模での環境問題について学ぶ。	なし
	医療科学部	放射線学科	放射線衛生学	放射線源について理解を深めるとともに、環境中や体内での放射線物質の動態、放射線源から受ける線量やその評価、防護の基本的な考え方、安全対策等について学ぶ。	なし
	医療科学部	放射線学科	放射線廃棄物処理論	原子力発電所や核燃料の再処理施設、医療・教育・研究施設など放射性同位元素を使用する施設で発生する放射性廃棄物の処理・処分の方法、放射性廃棄物の管理に関する規制の現状、国際的な動向について学ぶ。	なし
	医療科学部	臨床工学科	環境衛生学	日本各地の公害など、時代と共に変化した環境問題とその対策について学ぶ。	なし
名城大学	大学教育開発センター		出前講義	各教員が対応するテーマの中で環境保全や環境問題のテーマにも高校生、一般向けの出前講義を希望に応じて実施している	<a href="http://www.meijo-u.ac.jp/social/contribution/delivery/index.html">http://www.meijo-u.ac.jp/social/contribution/delivery/index.html</a>
	経済学部	産業社会学科	李秀澈 研究室	東アジアの持続可能な発展に向けたエネルギー環境政策のグリーン改革の方向性	
	理工学部	環境創造学科	水環境（谷口）研究室	環境にやさしい河川改修とは？/外来魚ブラウントラウトの影響/温暖化がイワナに及ぼす影響/在来イワナの遊漁管理/ニジマスの駆除効果/人工産卵床によるブラックバス駆除	<a href="http://green.ap.teacup.com/kankyousouzou/">http://green.ap.teacup.com/kankyousouzou/</a>
	農学部	生物環境科学科	植物保全学研究室	絶滅に向かう野生植物を守り、植物多様性の保全・維持・復元に貢献することをテーマに、最新の研究手法を駆使して、遺伝子～景観の各レベルで野生植物の現状、生態、環境応答などの研究を展開している。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo15/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo15/index.html</a>
	農学部	生物環境科学科	環境動物学研究室	陸地から海洋までの幅広い自然環境をフィールドにして、そこに生息するさまざまな野生動物の生態・行動・生理の解明を通して、生物多様性をいかに保全していくべきかの研究に取り組んでいる。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo16/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo16/index.html</a>
	農学部	生物環境科学科	環境分析学研究室	大気、土壌、水といった身の回りの環境中に存在する有害化学物質をさまざまな機器を用いて分析・評価を行い、また、バイオマスを有効利用した環境低負荷型材料の新規創製を行っている。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo17/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo17/index.html</a>
	農学部	生物環境科学科	環境土壌学研究室	環境負荷の軽減に配慮した農業技術の開発に資するため、土壌および作物における養分元素、重金属、農薬の動態を明らかにし、また、植物共生微生物を活用することを指向した研究を行っている。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo18/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo18/index.html</a>
	農学部	生物環境科学科	植物機能科学研究室	植物の強光、高温、乾燥などさまざまな環境環境ストレスに対する適応機構を生理・生化学的に解析している。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo19/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo19/index.html</a>
	農学部	生物環境科学科	環境微生物学研究室	「微生物が創る夢の世界」の実現をめざして、微生物が持つ力を借りて、さまざまな環境問題を科学的に解決する研究を行っている。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo20/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo20/index.html</a>
	農学部	生物環境科学科	ランドスケープ・デザイン学研究室	庭園から都市緑地、都市周辺の里山あるいは地球環境までの幅広い環境を対象にして、人の生活する外空間をよりよいものにするための研究を行っている。	<a href="http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo21/index.html">http://www-agr.meijo-u.ac.jp/cgi-bin/labo21/index.html</a>
	薬学部	薬学科	環境科学研究室	水環境で異常発生するラン藻類制御のための化学生態学的アプローチ	<a href="http://www-yaku.meijo-u.ac.jp/Research/Laboratory/inst_anal/index.html">http://www-yaku.meijo-u.ac.jp/Research/Laboratory/inst_anal/index.html</a>
	都市情報学部	都市情報学科	大野栄治研究室	環境整備の経済評価、大規模プロジェクトによる国土構造の変化	<a href="http://www.urban.meijo-u.ac.jp/homepage/research/ohno/">http://www.urban.meijo-u.ac.jp/homepage/research/ohno/</a>
	都市情報学部	都市情報学科	森杉雅史研究室	資源・廃棄物循環の適正評価、環境税の効果分析、地方都市の活性化をテーマに、評価手法を探索	<a href="http://www.urban.meijo-u.ac.jp/homepage/research/morisugi/">http://www.urban.meijo-u.ac.jp/homepage/research/morisugi/</a>